

日本海におけるマイワシ資源の調査体制再構築に向けて
～かつての資源増加期を振り返って～

昨春（2011年）、鳥取県境港でまとまってマイワシが水揚げされ、能登半島周辺でも短期間ではあったものの比較的多い漁獲が見られた。また、太平洋においてもマイワシの水揚げが顕著であり、マスコミを賑わした。マイワシの漁獲量が1990年代に急減して以来、すでに10年以上経過している。昨春の漁獲状況から、これから増えるかもしれないマイワシ資源について増加過程を捉えるべく調査体制を見直すには、今がちょうど適した時期と考えられる。そこで本シンポジウムでは、かつての資源増加期に当たる1970年代から1980年代初めにかけての漁況、現場の状況について、日本海側各地先の水産試験研究機関の方々から当時のことを紹介いただくことを中心に、資源増加期を迎えるにあたり、資源量変動の要因も含め資源動向をおさえるには、どのような仮説をたて、調査体制をどう構築すべきか、検討する。

後藤常夫・木下貴裕・田 永軍（日本海区水産研究所）

田中寛繁（西海区水産研究所）

* 講演時の資料については、下記ホームページ上で公開されているので、参照されたい。

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/event/h23shigenkenkyukai-9/symposium/>